



お問い合わせ先

中国四国農政局香川県拠点

〒760-0019 香川県高松市サンポート3番33号 ☎087-883-6500

中国四国農政局農村振興部農村計画課

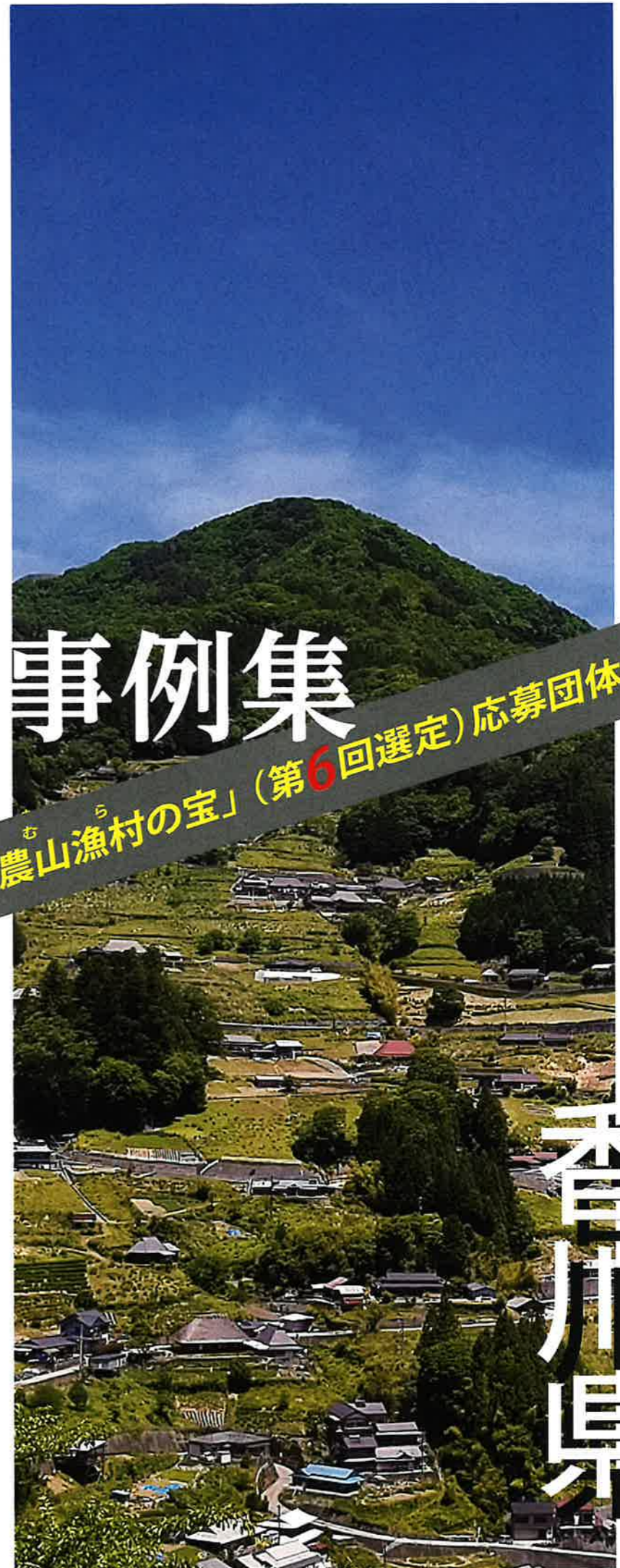
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号 ☎086-224-4511

取組事例集

「ディスカバ^ら農山漁村の宝」(第6回選定)応募団体

令和2年3月
中国四国農政局

香川県



発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和元年度）で6回目となります。

中国四国農政局管内では220件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区と1名（全国31地区と5名）が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として21地区と3名を選定するとともに、今年度から今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として14地区と5名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和2年3月
中国四国農政局農村振興部

目次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について	1
○ 応募団体一覧	8
○ 応募団体位置図	9
○ 応募団体の取組事例	10

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）では、令和元年7月1日から9月2日までに、農山漁村活性化の取組として全国から931件（管内からは220件）の応募があり、10月21日に首相官邸で開催された第3回有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として31地区と今回より新設された個人部門として5名が選定されました。

12月3日開催の選定授与式及び交流会では、選定地区の代表者を首相官邸に招いて選定証を授与し、内閣総理大臣、農林水産大臣、地方創生担当大臣からの直接の激励や地域リーダー同士の交流が行われました。また、12月4日には「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の紹介や選定地区の知名度向上に資するため、東京都内で選定地区による即売会（マルシェ）が開催されました。

中国四国農政局管内から優良事例として6地区と1名が選定され、その中から最優良地区のグランプリに島根県大田市の「株式会社 魚の屋」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」交流会



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった220件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和元年11月、中国四国農政局において選定委員会を開催し、21地区と3名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として14地区と5名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
選定地区オリジナルロゴマーク

(1) 全国版選定地区〔管内〕の概要（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第6回選定））

株式会社 魚の屋（島根県大田市） **グランプリ受賞地区**

- 国内市場が1%しかない天然わかめの刈りとりを漁師に依頼し、それをもとに新商品開発と販売を実施。
- 天然わかめの加工処理について、加工場で行うほか、障がい者就労施設や一人暮らしの高齢者に作業の一部を委託。



天然わかめを採取している姿

浄謙寺（広島県北広島町）

- 地域の魅力と仏教を伝えるため、地元産野菜を用いて作ることが可能なイタリアン精進料理の取組を実施。
- 料理の提供だけではなく、住職とともに読経や説法も合わせて実施。



食前の法話風景

株式会社 三見シーマザーズ（山口県萩市）

- 規格外の魚を収入に繋げるとともに、食事に困っている一人暮らしの高齢者へ食事を宅配しようと、弁当・惣菜の加工・販売の取組を実施。
- 道の駅のレストランを運営し、鮮度の高い地元産の魚料理を提供。
- 小中学生を対象に料理教室を実施し地元の魚のおいしさを伝える。



高齢者宅へのお弁当・惣菜の宅配

新居 希予（徳島県阿南市）

- 結婚により12代続く米農家で栽培に従事し、農業の厳しさや農産物の将来性、地域の魅力などを伝えることの重要性を痛感し、わかりやすく消費者に伝える「表現する農業」の取組を実施。
- 伝統黒米「弥生紫」の唯一の生産農家として伝統を継承する傍ら、地元テレビやyoutubeでの配信、学校の農業体験などにより生産現場から情報発信。



食いしん坊図絵を作成し食育、メディアで活用

愛媛県立 宇和島水産高等学校水産食品研究部「フィッシュガール」
(愛媛県宇和島市)

- 愛媛県産魚のPRを行うため、産官学の連携の下で女子生徒が養殖クロマグロの解体ショーや加工品開発、魚食の実演販売を実施。
- 「ブリ大根缶詰」や「鯛めしの素缶詰」等の開発製品を国内外で販売。



ハワイでのマグロ解体

農業生産法人 株式会社 ミヤモトオレンジガーデン（愛媛県八幡浜市）

- 「農業を事業として取り組む」との考えで、グローバルGAPや6次産業化に積極的に取組ながら、みかんの農業法人を運営。
- 廃棄していた摘果みかんを調味料「塩みかん」に活用するほか、GAP認証取得支援システムを開発し、他社の取得を支援。



GAP 経営研究会を開催

農事組合法人 ヒューマンライフ土佐（高知県越知町）

- 山間部の傾斜地でも栽培可能で軽量なため高齢者でも作業ができる生薬を製薬会社との契約栽培で生産。
- 乾燥・調製等の加工作業は他の産地からも集荷して行き、製薬会社に納品。



土佐ツムラの森にて中学生の薬草採取体験

（2） 地方版選定地区の概要（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

農業生産法人 株式会社 D's プランニング（鳥取県大山町）

- 勤務体系はサラリーマン並みを目指し、早朝出勤した場合は夕方早く帰宅できるよう配慮されている。また、子育て世代のお母さんや年配の方でも作業ができるよう棚の高さや作業工程など工夫している。
- 制服（作業着）やホームページの作成にこだわりを持ち、今までの農業のイメージとは違う情報発信をおこない雇用の確保に努めている。
- 2018年 ISO9001 取得



日々切磋琢磨し、頑張っています！

出雲市斐川土地改良区（島根県出雲市）

- 次世代を担う子供達を対象に平成12年度から出前授業、遊水池で行う生き物調査などを実施。
- 非農家も参加した水路の草刈や泥上、子供達も参加した「花のまちひかわ」の活性化に向けた植栽活動、水路脇の親水公園を活用したホタルの育成を実施。
- 米米（まいまい）田んぼとして、給食用米の田植えや稲刈り体験を実施。



保育園児と地元住民による植栽活動

株式会社 おおち山くじら（島根県美郷町）

- 町内で捕獲されるイノシシの約7割を集約し「おおち山くじら」という地域ブランド製品として確立し、全国へ販売展開。
- ポトフやカレーなどの6次産業化やイノシシの内臓は、ペットフード商品の原料などに活用。
- 革製品の制作により、女性・高齢者活躍の場の創出。



地域の女性部による革製品の製作

岡山県立 岡山南高等学校商業クラブ（岡山県岡山市）

- 米トレーサビリティ制度の勉強会を行い、制度の概要や社会的役割について学ぶ。
- 「駅弁」を企画することを決め、地元企業「株式会社三好野本店」に製造を委託。
- 農業が盛んな岡山県の特性を生かした、米だけでなく、様々な県産品を使った駅弁を開発し、発売までを実現。



休校日を使って定期的に販売会を開催

合同会社 ど根性ファーム（岡山県笠岡市）

- 通年栽培が可能な青ねぎを栽培。
- 障がい者・高齢者の作業の多様性創出と収益性アップのため、カットネギの製造に取り組み、6次産業化の認定を受ける。
- 生産から加工に係る作業工程において、座って作業ができる環境を整備するなど、働き手が作業しやすい環境を整備している。



座って作業できる環境を整備

みかわてらす（岡山県矢掛町）

- 専門家のアドバイスを得ながら、地域内にある農産物を活用した商品の開発を行った。
- 商品のコンセプトは「フタを開けてすぐ野菜が食べられる」等、健康志向の高い女性をターゲットとした商品開発に取り組み、パッケージ等にまでこだわった「陽気なピクルス」を開発した。
- カフェ「えんがわ食堂」をオープンし、ピクルスを使った食事を提供。



陽気なピクルス

農事組合法人 よしやま（広島県広島市）

- 農業体験教室の実施。
- 地元企業との連携による経営の安定化、及び地区の活性化。（メーカーとの契約栽培、ミニ道の駅（Oishi 吉山）の誘致、地区内レストランとの連携）
- 地区内での積極的雇用。植え付け、収穫期に年間延べ2,000人のアルバイトを雇用。



農業体験教室

株式会社 敷信村農吉（広島県庄原市）

- 自社農場米や地元旬野菜を使用した給食の提供、園庭での野菜を栽培など、農が身近にある地域特性を生かした保育を実践。
- 農家所得の向上や地域内交流の活性化のため、H20年に野菜の販売や卸を開始。耕作放棄地を活用した自社農場もスタート。
- 「日本の酪農の礎を築いた地」であることを知った地域の若者の希望を受け、H25年にチーズ工房を新設。



農とともに、地域とともにある保育の実践

本多 正樹（広島県安芸高田市）

- 農地中間管理機構を活用し、担い手間で農地を交換。
- 新規、若手農業者の横の連携を主軸に「新規就農者激励会」というイベントを立ち上げ、若者が地域で活動している事例を発信。
- 地元JA管内の若手農業者グループ「ひろほく農考会」の初代会長。地域の農業をあらゆる角度から考えるため、視察や意見交換などの活動に取り組む。



配食弁当でこだわりのお米を提供しているほ場

株式会社 ハートランドひろしま（広島県北広島町）

- 省エネ・環境にやさしいフィールド養液栽培で、ホウレンソウを通年栽培。利用者が整地、収穫、選別、袋詰め等の全作業を行う。
- ミニトマト、大根、白ねぎ等をハウスや露地で栽培。ミニトマトは、各ハウスを担当制にし、利用者1名が責任を持って管理を行う。
- 組合員の家族が実際に農業を体験できる場として、組合員交流を年8回開催し、農業や福祉への理解を促進。



養液栽培のホウレンソウと利用者

株式会社 秋川牧園（山口県山口市）

- 地元農家と飼料用米生産のネットワークを形成。米農家の技術を活用しつつ、グループで行う視察会を通じて栽培技術の向上と生産意欲を拡大。耕作放棄地を復活。
- 多収専用品種の飼料用米を給餌した鶏の堆肥を飼料用米の栽培圃場に投与し、理想的な循環型農業を実現。
- 飼料用米多収日本一コンテストへの応募。グループから平成29年の農林水産大臣賞（日本一）受賞を筆頭に毎年受賞者を輩出。



年2回実施する、飼料用米検討視察会の様子

株式会社 木原製作所（山口県山口市）

- “地域創生”として企画立案、乾燥技術提供、試作品開発、パッケージデザイン提案、保存・販売アドバイス、商標登録実務までを無償で行い、市内事業者の商品開発をサポート。
- 事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレー等、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。



開発商品の合同販促体験

特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会（山口県長門市）

- 耕作放棄地を無償で借り受け、さつま芋や景観作物の植付、ハーブの植付による鳥獣害対策など、棚田の保全活動を実施。
- 小中学生を対象とした花香づくり・昆虫トレール教室、いも掘り体験の受入など、体験教室を開催。



夏休み宿題お助けツアー：昆虫とれ～る

株式会社 農家ソムリエーズ（徳島県徳島市）

- 香港、台湾、マレーシア等のアジア圏へ輸出を行い、県や地域商社と連携し、現地でイベント販売とプロモーションを実施。
- サツマイモチップス「おさっち」を開発・販売。自社生産した「なると金時」を使用し、生産、加工及び販売を行う6次産業化を実現。
- 地域の子どもたちに栽培体験を通じた食育の推進。



なると金時チップス おさっち

GOTTSO 阿波（徳島県阿波市）

- GOTTSO（ごつつお）とは阿波弁で「ごちそう」という意味。野菜の出張販売や広報などを行い、農業の盛り返しを図る。
- 「美～ナス」を使い、幼稚園や小学校での食育を通じて、消費量増加への取組を行っている。
- 「グローバル GAP」、「とくしま安2 GAP 農産物」認証の優秀認定」を取得し、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO 美～ナス」の納品を目指す。



2019 年度 PR 用ポスター

西岡田 治 治（徳島県つるぎ町）

- 標高 300m、傾斜 30 度の急傾斜地の畑 20a で栽培しているソバの花が満開の毎年 9 月下旬から 10 月中旬に観光農園として一般開放し、急傾斜地農耕を実感してもらっている。
- 平成 27 年、旧暦 10 月の最初の亥の日に行われる地域の伝統的農耕行事「お亥の子さん」を、地域の小学生とともに 25 年振りに復活させた。



花咲くソバ畑

有限会社 赤松牧場（香川県高松市）

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲 WCS を栽培し、生産した稲 WCS を飼料として畜産農家へ供給。平成 28 年に WCS 生産組合を設立し、平成 30 年には耕種農家 14 名で、栽培面積を 20ha まで拡大。
- 堆肥調整保管施設の整備等を実施し、耕畜連携の可能性を拡大。
- ジェラートショップは地産地消のため、近隣農家のブドウ・イチゴ等を仕入れて利用。



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫

香川用水土地改良区（香川県高松市）

- 平成 29 年 7 月に香川用水記念会館の移転整備を行い、新たな記念会館を拠点とする情報の発信。
- 小学 4 年生を対象に出前授業を開催し、併せて香川用水施設の見学と幹線水路内の清掃作業を実施。
- 幹線用水路（59km）について、地域住民のボランティアに巡視員を委嘱し、地域住民と一体となった施設巡視体制を構築。



香川用水幹線水路・開水路区間

阿部 隆弘（香川県三木町）

- JA 関係者と障がい者の工賃値上げ交渉を行い、単価の値上げ、休日の割増賃金及び交通費の支給を実現し、申し合わせ書を作成した。
- 市町と連携して障がい者就労施設を対象とした参入促進説明会や技術研修会の開催、農福連携による農作業の説明用マニュアルを作成している。



平成 30 年度 農作業支援強化研修会・琴平

四海漁業協同組合（香川県土庄町）

- 「小豆島 島鯉」を名乗るため、4つの基準を設け、他地域との差別化を図る。
- 島内業者が水揚げしたハモを共同出荷することにより安定した品質・出荷量を確保。
- 加工品の開発を可能とするため、ハモ骨切機、大型真空包装機等を導入し、骨切を行ったハモの販売（1次加工品）に取り組む。
- 京都産業大学と連携し、情報発信を強化。



小豆島島鯉まつり・初出荷式

株式会社 玉津柑橘倶楽部（愛媛県宇和島市）

- 被災直後、玉津クラウドファンディングを立ち上げ、全国からの義援金はスプリンクラー施設の補修費に充当。
- ボランティア、アルバイトの受入れには宿泊施設が無いため受入人数に制約があったが、JA えひめ南と連携し研修施設を開設。
- 生産者の所得向上を目的に、みかんや宇和ゴールド（河内晩柑）のジュースを商品化。



玉津オリジナルみかんジュース

道の駅よって西土佐（株式会社 西土佐ふるさと市）

（高知県四万十市）

- 新たな名物として、地域の食文化を尊重しつつ「洋」を取り入れた、四万十天然鮎を使った「鮎のコンフィ」を開発。
- 生きた鮎を築地市場へ運ぶための品質管理、流通技術・管理を開発。現在天然活魚を豊洲市場に送っているのは四万十川のみ。
- 上流から下流まで「全漁協による四万十鮎ブランドプロジェクトチーム」発足。



日本で唯一鮎市場のある道の駅

農事組合法人 上東（高知県いの町）

- 集落営農組織主体で機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。有望品目研究部門を設立し、全組合員が野菜作りに親しむ環境を整備。
- 何度も協議を重ね、平成31年1月に「農事組合法人上東」を設立し生産体制を強化。
- 3月末のカタシの花祭り時期に合わせ住民手づくりのイベントを開催し、都市住民との交流を図る。



農事組合法人上東 設立総会



集落活動センターゆすはら西推進委員会（高知県梶原町）

- 獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入（平成29年度）。
- 鹿の捕獲は多いが町中心部から遠い松原区を中心にジビエカーを運用することで、解体処理施設への円滑な搬入を実施。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用。

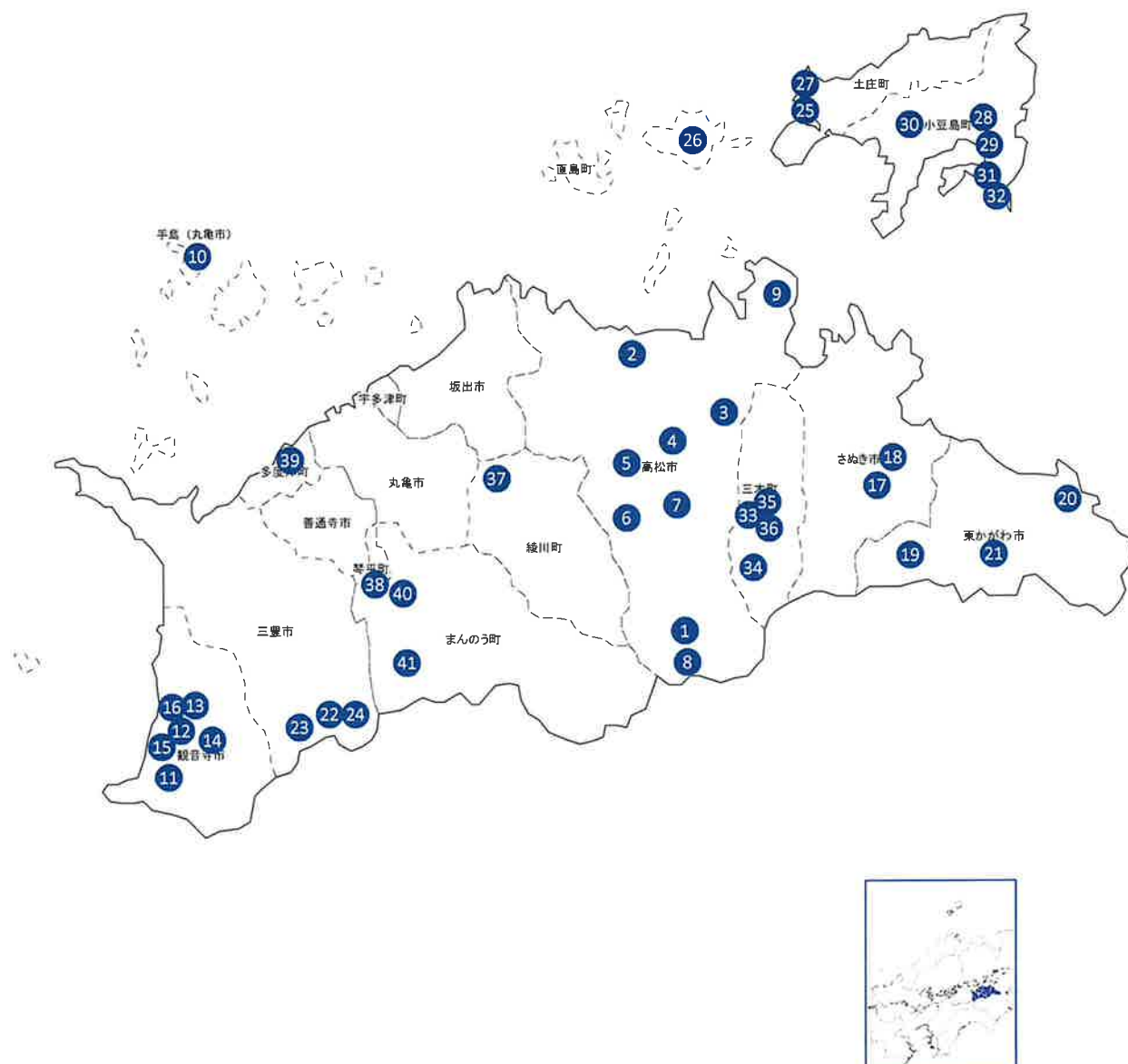


新設した解体処理施設と日本初導入ジビエカー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回選定) 応募団体 一覧 (香川県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		コミュニティ	高松市	特定非営利活動法人しおのえ	高齢者の活躍	食育・教育	その他(インバウンド)
②		コミュニティ	高松市	香川用水土地改良区	環境保全・景観保全	伝統の継承	教育機関との連携
③		ビジネス	高松市	特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会	雇用	農福連携	高齢者の活躍
④		コミュニティ	高松市	香川県三郎池土地改良区	環境保全・景観保全	食育・教育	教育機関との連携
⑤		コミュニティ	高松市	香川町浅野土地改良区	伝統の継承	—	—
⑥		コミュニティ	高松市	有限会社 赤松牧場	その他(耕種農家と畜産農家の耕畜連携)	6次産業化	—
⑦		個人	高松市	澳 敬夫	農泊	農林漁業・農村文化体験	食育・教育
⑧		コミュニティ	高松市	特定非営利活動法人 奥塩江ボランティア協会	農林漁業・農村文化体験	環境保全・景観保全	伝統の継承
⑨		ビジネス	高松市	社会福祉法人 洋々会	6次産業化	農福連携	その他(遊休農地の活用)
⑩		コミュニティ	丸亀市	塩飽部隊(四国夢中人)	環境保全・景観保全	教育機関との連携	—
⑪		ビジネス	観音寺市	有限会社 フジカワ果樹園	雇用	6次産業化	—
⑫		個人	観音寺市	近藤 雅彰	食育・教育	雇用	学生・若者の活躍
⑬		コミュニティ	観音寺市	油井水土里保全組合	農林漁業・農村文化体験	環境保全・景観保全	食育・教育
⑭		コミュニティ	観音寺市	五郷里づくりの会	農泊	伝統の継承	その他(国内外観光客の地元食材の提供・活用)
⑮		コミュニティ	観音寺市	観音寺市 本村地区環境保全会	環境保全・景観保全	伝統の継承	食育・教育
⑯		コミュニティ	観音寺市	大野原地域資源保全会	環境保全・景観保全	食育・教育	—
⑰		コミュニティ	さぬき市	南川自然薯研究会	農林漁業・農村文化体験	食育・教育	高齢者の活躍
⑱		コミュニティ	さぬき市	豊田協定	鳥獣被害防止	—	—
⑲		コミュニティ	東かがわ市	五名活性化協議会	ジビエ	移住・定住	6次産業化
⑳		コミュニティ	東かがわ市	株式会社 ソルトレイクひけた	農林漁業・農村文化体験	伝統の継承	食育・教育
㉑		コミュニティ	東かがわ市	農事組合法人 福栄中央	農林漁業・農村文化体験	6次産業化	学生・若者の活躍
㉒		ビジネス	三豊市	大地と語り合う会	6次産業化	女性の活躍	その他(地元食材の提供・活用)
㉓		コミュニティ	三豊市	河内アグリ活動組織	環境保全・景観保全	食育・教育	高齢者の活躍
㉔		個人	三豊市	多田 弘美	6次産業化	女性の活躍	その他(地元食材の提供・活用)
㉕		コミュニティ	土庄町	小豆島陽当たりの里伊喜末	鳥獣被害防止	農林漁業・農村文化体験	食育・教育
㉖		コミュニティ	土庄町	唐櫃棚田保存会	農林漁業・農村文化体験	環境保全・景観保全	伝統の継承
㉗		ビジネス	土庄町	四海漁業協同組合	農林漁業・農村文化体験	食育・教育	教育機関との連携
㉘		コミュニティ	小豆島町	東條地域農業集団	鳥獣被害防止	環境保全・景観保全	食育・教育
㉙		コミュニティ	小豆島町	小豆島食材開発会議	6次産業化	企業との連携	高齢者の活躍
㉚		コミュニティ	小豆島町	小豆島町中山棚田協議会	農林漁業・農村文化体験	環境保全・景観保全	その他(地元食材の提供・活用)
㉛		個人	小豆島町	久保 輝明	農泊	農林漁業・農村文化体験	その他(インバウンド)
㉜		ビジネス	小豆島町	坂手古民家活用推進協議会	農泊	農林漁業・農村文化体験	その他(インバウンド)
㉝		コミュニティ	三木町	三ツ子石池資源保全組合	環境保全・景観保全	食育・教育	高齢者の活躍
㉞		ビジネス	三木町	山南営農組合 農村レストラン部会	ジビエ	6次産業化	女性の活躍
㉟		個人	三木町	阿部 隆弘	農福連携	—	—
㊱		コミュニティ	三木町	丸岡生き活きクラブ	環境保全・景観保全	食育・教育	高齢者の活躍
㊲		個人	綾川町	稲木 健造	6次産業化	企業との連携	—
㊳		コミュニティ	琴平町	苗田東環境保全の会	環境保全・景観保全	食育・教育	移住・定住
㊴		コミュニティ	多度津町	多度津さくら工房	農林漁業・農村文化体験	6次産業化	企業との連携
㊵		ビジネス	まんのう町	帆山地域保全活動組織	環境保全・景観保全	食育・教育	6次産業化
㊶		ビジネス	まんのう町	株式会社 グリーンパークまんのう	移住・定住	雇用	6次産業化

応募団体位置図（香川県）



特定非営利活動法人しおのえ

～心のふるさとを見つける旅！～



流しそうめん体験



いのししの丸焼き体験

経緯

- 過疎・高齢化の進む故郷の活性化、地域おこしや環境保護を目的として、平成14年にNPO法人「しおのえ」を設立。
- 平成17年の市町合併を契機として、各種の体験活動を本格的に展開。

取組内容

- 構成員が運営するホテルを拠点にして、観光客や県内の小学生を対象に、うどん打ちやこけ玉づくりなど各種体験メニューを企画・実施。
- ジビエの有効活用と「命」をいただくことを伝えるため「いのしし」の丸焼きを提供。
- 体験メニューの指導者として地元高齢者が活躍。
- 台湾の旅行会社が体験プログラムを採り入れたツアーを企画し、14回実施(平成30年)。

活動の効果

- 地元高齢者を指導者に起用することにより、生きがいつくりの場や各世代・地域内外の人たちの交流の場となっている。
- 地元ならではの体験メニューを企画し、参加者が現地集合・現地解散する着地型観光を定着させ国内外の観光客が増加。
- 県内小学校の体験宿泊学習(うどん打ちなど)が増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

過疎・高齢化の進む中、故郷の魅力をお伝えしたいと思い、活動をしています。うどん打ち体験、そば打ち体験、竹細工体験など地元のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に挑戦してみませんか。

高松市塩江町上西乙1118-8 Tel: 087-893-1105

2

たかまつ
香川県高松市環境保全・
景観保全

伝統の継承

教育機関との
連携

かがわようすい

香川用水土地改良区

～「いのちの水・友情の水」を大切に守ろう！～



香川用水幹線水路・開水路区間



香川用水記念会館 外観

経緯

- 香川用水記念会館の移転整備を契機に、香川用水の恩恵と水源地域への感謝の気持ちをこれまで以上に県内外の方々に広く伝えるために実施。
- 地域住民を巻き込んで香川用水や香川用水施設の大切さ等の理解を醸成する。

取組内容

- 平成29年7月に香川用水記念会館の移転整備を行い、新たな記念会館を拠点とする情報の発信。
- 小学4年生を対象に出前授業を開催し、併せて香川用水施設の見学と幹線用水路内の清掃作業を実施。
- 幹線用水路(59km)について、地域住民のボランティアに巡視員を委嘱し、地域住民と一体となった施設巡視体制を構築。

活動の効果

- 小学校を対象とした出前授業等は授業内容などが分かりやすいと好評を得て、広範囲の小学校から出前授業の要望があり、水の大切さの理解を深めている。
- 非農家や主婦を含めた多様な主体がボランティアで香川用水施設巡視員として、水利施設の維持保全に尽力していただくことが、安定した香川用水の配水につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

新たな香川用水記念会館が香川用水の安定した配水管理の重要性と意義や恩恵を伝える情報発信拠点となるよう、資料館を積極的に活用した広報活動を実施します。

高松市番町5丁目1番29号 Tel: 087-802-5711

特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会

～障がい者と農業者の架け橋として～



平成30年度 農作業支援強化研修会・琴平町



プラグポットの洗浄作業・観音寺市

経緯

- 障がい者福祉施設では、受託作業の減少や自主製品の販売不振などから収益が減少し、一人あたりの平均工賃が10,000円台/月と低迷。
- 農家では、高齢化が進む中、農繁期の労働力不足などにより、経営規模を縮小する農家が増加しており、労働力確保が急務。

取組内容

- 平成23年から、NPO法人香川県社会就労センター協議会に「共同受注窓口」を設置し、農作業請負のマッチングによる農福連携の取組を開始。平成30年度から障がい者就労施設を対象とした、参入説明会や技術研修会を開催。
- 障がい者福祉施設と農家のマッチングや調整等には専任のコーディネーターを配置。

活動の効果

- 障がい者のできる仕事が県内の農家に浸透。
- 現在、施設外就労に延作業人数約12,000人が参加。
- 施設利用者の作業工賃は年々増額。利用者も「やればできる」という体験から働く意欲が湧き、更には、働く姿が認められ、一般就労へと進む者も現れた。
- 農家からの作業依頼は年々増加。農家において障がい者はなくてはならない存在となった。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も、関係者との意思疎通を円滑に行い、農作業に参加可能な福祉施設を増やしていくとともに、他県からの視察等の受入や各種セミナー等に出席して、全国に香川県の「共同受注農作業システム」による農福連携の取組を広げていきたい。

高松市元山町1193-2 Tel: 087-813-1420

かがわけんさぶろういけ
香川県三郎池土地改良区

～ため池のクリーン作戦と多面的機能のPR～



ため池西側流入部の活動状況



地域の小学校での出前授業

経緯

- 平成3年度に県営利活用保全施設整備工事を実施し、堤防エリアを公園整備し地域の憩いの場とした。
- 近傍にある日山の登山道の整備と相まって利用者は増加し、ゴミ対策と景観保全が課題となった。
- 平成22年からクリーンアップ作戦を展開している。

取組内容

- 平成22年から、3年に1度池干しのための落水にあわせてクリーンアップ作戦を実施。以降は平成25年、29年に実施しており、いずれも250人余りが参加している。
- 平成25年からクリーンアップ作戦に合わせ、小学生の校外授業として三郎池に住む生物について淡水魚の専門家を招き説明会を実施している。
- 地元小学校等での出前授業を実施。

活動の効果

- クリーンアップ作戦により池の水質改善がみられるようになった。
- 貯水量170万トンを超える三郎池の多面的機能を地域住民に理解してもらうとともに、緊急時の避難経路等について三郎池の存在を意識した計画が策定された。
- 池干し時に外来種の生物を駆除することにより、三郎池に生息する在来種の保護を推進している。

応募団体からのアピール・メッセージ

クリーンアップ作戦を実施しているものの、手の届いていない部分はまだあることから、その部分について対策を講じなければならないと考えています。

かがわちょうあさの

香川町浅野土地改良区

～新池ゆかりの矢延平六を祀る伝統を継承～



ひょうげた姿で新池を目指し行進する



祭りのクライマックス。神輿を新池に投げ込む

経緯

- ひょうげ祭りの起源は新池を築造した矢延平六の功績を称えるもので、三百余年前から継承されている。
- 新池にまつわる行事であることから水利組合を中心に催されてきたが、平成9年からひょうげ祭り保存会で祭りを開催、浅野土地改良区で法要と神事を行うこととなった。

取組内容

- 土地改良区で管理している新池にゆかりのある矢延平六を悼み毎年法要を行うとともに、新池築造の功績を後世に伝えていく。また、伝統行事であるひょうげ祭りを後世に伝えるだけでなく全国、世界に広げていく。
- 神事、ひょうげ祭りは9月第2日曜日に開催し、法要は前日の土曜日に行う。
- ひょうげ祭りをテーマとした写真展を開催。

活動の効果

- 法要・神事・ひょうげ祭りの伝統文化を継承することで、地域住民の交流を図るとともに、香川県の伝統文化として全国、海外へと発信。
- ひょうげ祭りの起源や意義を知ってもらうことで、矢延平六のこと、香川県の水事情、歴史に関心を持ってもらう機会となっている。
- 年々見物人も増加し、地区の行事としてだけでなく香川県の名物となってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

三百余年前から先人が守り続けてきたこの伝統行事を大切に絶やすことなく後世に伝承することにより、他の地域と交流を深め地域の活性化を目指していきたい。

高松市番町五丁目1番29号 Tel: 087-832-7140

6

たかまつ
香川県高松市その他(耕種農家と
畜産農家の耕畜連
携)

6次産業化

あかまつぼくじょう
有限会社 赤松牧場

～ 耕畜連携と6次化で地域とともに発展～



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫



ジェラートショップ

経緯

- 経営規模の拡大と安定化を図るため、平成15年に法人化した。また、平成22年に自家製牛乳を利用したジェラートショップを開設し、6次産業化に取り組む。
- 平成27年に米価下落の対策として耕畜連携による稲WCSの栽培を実施し、平成30年からトウモロコシの試験栽培に取り組む。

取組内容

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲WCSを栽培し、生産した稲WCSを飼料として畜産農家へ供給。平成28年にWCS生産組合を設立し、平成30年には耕種農家14名で、栽培面積を20haまで拡大。
- 堆肥調整保管施設の整備等を実施し、耕畜連携の可能性を拡大。
- ジェラートショップは地産地消のため、近隣農家のブドウ・イチゴ等を仕入れて利用。

活動の効果

- 耕畜連携の拡大は、耕種農家の収益等の向上、畜産農家の飼料コスト低減や飼養規模の拡大に繋がり、相互にメリットがある取り組みとなっている。また、地域の相互交流で、地域が一体となって農業を盛り上げようとする気運が高まっている。
- ジェラートショップの運営は、耕畜連携の拡大を押し進めており、さらなる環境整備や安全・安心な生乳生産に活かされている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今年は、さらなる消費者との交流や耕畜連携の拡大を進めるため、チーズ製造施設(工房)の整備を予定しています。

高松市香南町由佐2240 Tel: 087-879-3446

～みんなで創るオリーブテーマパーク～



オリーブ畑の中のカフェレストラン



ワインパーティー

経緯

- 西植田地区には、四季の移ろいとともにより様な色を発する山々、静かに佇む神内池を水源とし潤されている田畑、またそれらを古来から守り続ける人々がいる。
- そのような里山での暮らしや自然体験を地区外、国外の人々に体験してもらうため、西植田地区活性化協議会を結成。

取組内容

- 盆栽や漆芸、保田織といった“讃岐の意匠”を打ち出して民家をリノベーション。地元食材とオリーブを用いた料理を提供し、香川らしい「おせったい」の心でおもてなしを行う。
- 地区内産の米、野菜、オリーブオイルに始まり、本地区の山々に多いクヌギのドングリを食べて育ったイノシシを活用した料理(ジビエ)を提供するカフェレストランを整備。
- 国内に限らず海外からの旅行者にも農作業を手伝ってもらい、対価として食事と宿泊場所を提供する仕組みを取り入れる。

活動の効果

- 国内に限らず海外からの旅行者にも農作業を手伝ってもらい、対価として食事と宿泊場所を提供する仕組みを取り入れることにより、農業において一番必要とされるマンパワーを確保し、少ない農業従事者で広大な農地を管理するシステムを構築した。また、守り伝えていくべき日本・地域の文化・伝統を広く発信するという貴重な機会を創出している。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域住民、都心部のお客様、外国からの旅行者らがみんな参加型で、オリーブなどを中心とした食や健康、地域社会を作り上げていきたい。

おくしおのえ

特定非営利活動法人 奥塩江ボランティア協会

～スローライフを楽しみ持続可能な社会に貢献～



楽農人事業 茶畑再生



環境フォーラム事業 わら草履作成

経緯

- かつては木・炭・農産物の供給地や交通の要所として賑わっていたが、過疎・高齢化が進み、地区の小学校も廃校となり、地区の活気が失われた。
- 賑わいを取り戻そうと、有志20名が中心となり地区の活性化を目的として2006年に「奥塩江ボランティア協会」を設立した。

取組内容

- かつて地域で中核的な特産物であった茶の復活のため、耕作放棄地となっていた茶畑を再生した。
- 地元で採れた食材を使い、地域内外の人が集まり調理や食事会を行っている。
- ハイキング、山菜採り、史跡紹介事業を実施し、参加者に自然と山村風景の残る奥塩江の魅力を紹介している。

活動の効果

- 現在はお茶だけでなく、ソバの栽培も始め、少しずつ耕作放棄地を減らすことに貢献している。
- 当協会の100名の会員は、『モモの広場』と名づけた元上西中学校・上西保育所跡と、山村『奥塩江』に残る豊かな自然・風土が好きで、『のんびり、ゆったり、心豊かに』、『スローライフを楽しみ、持続可能な社会に貢献する』を合言葉に集まっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

山村『奥塩江』に残る豊かな自然・風土を活かし、伝統文化の継承、農村文化の体験等を行っています。

高松市塩江町上西甲77番地 Tel:080-5665-1614

ようようかい
社会福祉法人 洋々会

～障がい者が生き生きと働くあじの里福祉農園～



社会福祉法人 洋々会外観



就労継続支援B型「きらり」通所障がい者

経緯

- 洋々会の活動地域は、農家の高齢化・過疎化が進み、担い手不足から農業の引き受け手がいないため、遊休農地が増え、地域農業の維持が困難になりつつある。
- 障がい者は、景気の低迷等から就労先の確保が困難となりつつある。
- 障がい者の勤労先の確保と地域の農地維持等の観点から、農業分野と福祉分野の両面の対策として福祉農園活動を実施。

取組内容

- 福祉農園における営農の収益性、継続性を確保するため露地栽培とビニールハウス栽培を併用した通年栽培を実施。
- 専門家の指導を受けながら市場に受け入れやすい指定野菜に特化(ミニトマト栽培に注力)した栽培を行う。
- 市場に出荷できる形態への野菜調製は、洋々会施設内に加工所を設けて実施。
- 生産物の一部は、関連施設の食品事業者と契約販売するとともに、地元スーパー等にも販売。

活動の効果

- 福祉農園事業を推進することによって、障がい者の安定的な就労機会を確保すると共に、更なる就労機会の創出を目指す。
- 増加傾向が顕著な周辺遊休農地の解消もあわせて実施する。
- 農地耕作の担い手が減少している同地区においての歯止め効果、障がい者就労機会はもとより、この事業に携わる人材の賃金収入の向上が期待できる。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の皆様からの福祉農園に対する期待は高まっており、今後も地域に根差した活動を行っていきたい。

高松市庵治町4151番地7 Tel: 087-870-3500

しわくぶたい しこむちゆうじん

塩飽部隊(四国夢中人)

～自販機1台の島を宝島にするチームラボ～



京大農学部学生への香川本鷹農家による現地指導



島民と若者の触れ合いバーベキュー

経緯

- 香川県丸亀市沖の手島は人口わずか20人で、高齢化率は90%。2016年11月に3人の京大農学部学生と島を訪問。島に生きる人たちの力強さに感銘を受け、塩飽諸島を盛り上げるための活動の必要性を抱く。
- 手島を活性化するため、京都大学農業系サークルの学生とNPO「四国夢中人」と手島の住民によって任意団体「塩飽部隊」を設立。

取組内容

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の現地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された四季の花の苗を、ボランティアが休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部に至る道路にフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集合し、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。

活動の効果

- 塩飽部隊は、様々な分野の人の集まる場所として、島の資源を活かした取組を実施。これらの活動を英語版You Tubeを通じて国内外に発信することで、メディアにも取り上げられ、「手島」の認知度が高まった。
- 陶芸家男女4人の2カップルが手島に移住してきた。

応募団体からのアピール・メッセージ

塩飽部隊は京大農学部、養護学校園芸部、外国人ALT(英語補助指導教諭)等の若者たちと共に、様々なジャンルの方々を巻き込んで人と自然を循環させるモデルアイランドを実践している。県産品の材料にこだわった菓子職人が手島の柑橘系果実を使った素材を検討している。将来に向けて新たな開拓に力を注ぎたい。

丸亀市7番丁71 Tel: 0877-23-7262

有限会社フジカワ果樹園

～「まるい未完(みかん)塾」で産地存続！！～



写真中央男性:まるい未完塾卒業独立生



柑橘果汁がない期間、飲食店に卸売り

経緯

- 柑橘類の価格低迷と生産者の高齢化に伴い、全国的に柑橘産地は縮小傾向。丸井地区も例外ではなく、後継者が育たず廃業するケースが多く、園地が荒廃、産地維持が難しくなっている。
- 産地存続にむけて、後継者を育成するための研修制度や独立後の生産基盤を斡旋する仕組み作りに取り組む。

取組内容

- 柑橘技術研修制度「まるい未完(みかん)塾」を創設。県内外から、原則、柑橘生産者として独立を希望する者を募り、2年間で生産技術を習得してもらう。
- 儲かる農業を実践・提案して、地域の柑橘生産者の生産販売を強化。
- 6次産業化に取り組み、販売チャンネルを多様化。直売所やネットショップを運営。柑橘類のジュースやアイス等の加工品を委託製造、販売に取り組み、県内外の飲食店に卸売りする。

活動の効果

- 「まるい未完(みかん)塾」を創設後、独立した卒業生第1号が平成30年度に誕生。
- 地区内の柑橘生産者の所得を確保することで、廃業と園地荒廃を防ぎ、産地の維持と環境保全の効果が出ている。
- 県内外の飲食店に卸売りし、飲食店の活性化に一役かっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

儲かる農業の実践こそが、新規就農者の離農を防ぎ、後継者の確保、雇用の促進に繋がる。ひいては農山村の環境保全と地域活性化の原動力となると信じて経済活動を行っています。

高松市番町四丁目1番10号 Tel: 087-832-3395

こんどう まさあき
近藤 雅彰

～目指せ！ロメインレタス日本一！～



自慢のロメインレタス



(株)中大で修行 後列右から3番目が近藤氏

経緯

○地元は古くからのレタス産地であるが、高齢化により土地を手放す人が多い。このため、ロメインレタスの日本一の産地化を目指しながら、10年後、20年後も農地を守り、子供達に繋げていきたいとの思いで、「土づくりに努力」「緑を守るために努力」「家族・社員を守るよう努力」をモットーに、平成25年に独立、平成30年に株式会社「土緑家」を設立した。

取組内容

- 平成27年度、「ロメインレタスぶきやい」を設立。面積拡大とブランド化を進めている。
- 平成30年度、株式会社「土緑家」を設立。新規就農者や外国人技能実習生を積極的に受け入れている。
- 地元企業や学校と連携し、地域に愛される産地づくりを展開。地元のかまぼこ会社と連携しロメインレタスを使用した天ぷらを開発。地元高校の食物連携の授業にロメインレタスを提供し、生徒に食育を行っている。

活動の効果

- 地元や県内にはロメインレタスの産地はなかったが、将来性を見込んでロメインレタスを導入。ロメインレタスの産地化を目指し、地域の仲間たちとぶきやい(部会)を設立、初代ぶきやい長に就任。
- ロメインレタスの売り上げは、約3.2万円(平成27年度)→約1,400万円(平成30年度)に増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

ロメインレタスへの愛情が深すぎて、スーツも自家用車も家さえもロメイン色で頑張っています。

ゆい みどり
油井水土里保全組合

～各種団体の連携、協力による農村環境づくり～



うがみ神社境内での三世代交流の花見の会



遊水池清掃

経緯

- 圃場整備をきっかけとして、高齢化や混住化に伴う遊休農地の解消と、江戸時代から受け継いできた広庄池等水資源の維持管理を図る。
- 新興住宅地の若い世代の協力を得て地域全体の環境活動とするため、農地・水・環境保全活動への取り組み。

取組内容

- 広庄池の堤防にスイセン、ヒガン花、堤外には萩、アジサイを植えて管理。水路法面には、センチビートグラスを植栽し雑草防止、法面侵食防止を図り、定期的に水路清掃を実施。
- 旧五兵池に梅、桜、藤、ツツジを植栽し公園化。また、ビオトープ(500㎡)を造成し、ホタルの幼虫と餌となるカワニナを放流。
- いきいきふれあいサロンを通じて三世代交流の活性化を図るほか、地域ぐるみで参加できる催しを行う。

活動の効果

- 自治会、老人会、自治消防団、婦人部、子供会、水利組合、油井水土里保全組合など各種団体の連携を図り、協力体制を構築のうえ様々な保全活動に取り組んだ結果、地域の環境づくりに役立っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

美しい農村環境と様々な遺跡・伝説・それらを育んだ地域資源を守り、環境を重視した住みよい、楽しい地域づくりを、これからも実践していきます。

ごごう
五郷里づくりの会

～「GOGO五郷！」文化は山から降りてくる～



水車小屋・あずまやで総会とBBQ大会



里山歩きツアー(豊稔池)

経緯

- 人口減少や高齢化が進む中、平成17年の市町合併による「五郷の地名消失」や平成20年の「五郷小学校の廃校」により地域のつながりが消失の危機。
- 地域コミュニティの存続が危ぶまれる中、平成23年、地域活性化活動の母体となる「五郷里づくりの会」を発足。

取組内容

- 地区の歴史・地理等を説明しつつ散策し、伝統料理でもてなす里山歩きツアーを平成24年度から春と秋に開催し、本年度は5コースで7回実施。
- そば打ち・みかん狩り体験や人気のコンニャク作り等、地元の自然や農産物を活用した各種イベントの開催。HPやSNSで情報発信。
- 平成25年に地域活性化のシンボルであり伝統文化の継承施設として「五郷水車」を復活。平成28年4月に地域の活動拠点として「あずまや」を併設。令和2年には、ピザ釜を2基設置。

活動の効果

- 令和元年度の里山歩きツアーは、平成30年度より参加者数は微減したが参加費の増額もあり収入は約1.2倍になり収益は約1.4倍となった。
- 郷土料理(こもけ団子汁)は、一般の多くの方から好評を得ており、訪問者の増加に貢献している。
- 地区外の方々に五郷地区が注目され始めたため、会員が農家民宿を始めた。

応募団体からのアピール・メッセージ

五郷は、五感に訴えかける魅力ある場所です。ぜひ一度、魅力ある五郷へ足をお運びいただいて、感じとってください！ お待ちしております。地区内にも農家民宿があります。
HP: <http://gogou.jp> Fb: 五郷里づくりの会

観音寺市大野原町井関538-4 Tel: 0875-54-3984

ほんむら
観音寺市 本村地区環境保全会

～未来に残す豊かな田園 皆で取り組む環境保全～



長寿会・環境保全会が共同で種蒔き



秋祭りの山車とコスモス

経緯

- 農業者の減少や高齢化に伴う農業用施設の維持管理を、地区全体で行うために設立。
- 本村地区の自然、環境、資源や伝統文化の大切さを後世へ継承してもらうことを目的とし、地区内の各種組織を構成員として活動を行う。

取組内容

- 景観形成のためのコスモス、ひまわり、綿花を子供会、長寿会、営農集団を中心に栽培することにより、世代間の交流を促進。
- 5つの池、開水路及び農道の環境整備、EM菌利用による生ごみの堆肥化及び水路の水質浄化活動。
- 伝統文化遺産の保持、継承。

活動の効果

- 世代を越えた活動により、地域内の交流が活発となり、住民同士の連帯感、協力感を生み出すことができている。また、共用設備の補修による長寿命化や更新等で、防災・減災にもつなげている。
- 自然、環境、資源、伝統文化の保持、継承を通じて地域の活性化につなげている。

応募団体からのアピール・メッセージ

自然、環境、資源、伝統文化を守り、次世代に継承するとともに、住みやすく楽しい地域づくりを、これからも実践していきます。

おおのほら
大野原地域資源保全会

～子供会との清掃活動で地域を守る人間づくり～



親子で安全を確認しながら清掃



投げ捨てられた空き缶を集める子供達

経緯

- 地域の国道、県道沿いで水路や農地に空き缶等の投げ捨てが多くその対応に苦慮。
- 平成26年度より多面的機能支払事業に取り組み、地域の環境保全活動を行うことにより地域住民が交流・連携することを目的とするとともに、子供会も含めた清掃作業を行い、地域を守る人間形成を目指すこととした。

取組内容

- 地域内にある子供会に呼びかけ、子供達を中心に保護者が付き添い、ゴミ拾い、カーブミラーの清掃等の環境保全活動を実施。

活動の効果

- 子供達が地域の大人たちと活動を行うことで顔見知りになり、挨拶ができるようになった。大人もどんな子供が住んでいるのかわかり、声かけするなど防犯上の効果が見られ、地域との関係が良好になってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

豊稔池土地改良区の受益地域で多面的機能支払交付金活動を実施している。活動組織を中心に他地域と連携協力し、この活動が旧大野原町全体に広がるようPRしていきたい。

高松市番町五丁目1番29号 Tel: 087-832-7140

みなみかわじねんじょ
南川自然薯研究会

～「特産の自然薯」で地域おこし、全国発送へ～



南川じねんじょまつり



自然薯料理コンテスト審査の様子

経緯

- 昭和62年、農家の有志が転作作物として自然薯栽培を開始。
- 品質の向上に向けて、試行錯誤を繰り返し、次第に品質の良いものができるようになり、今では県内外でも有数の産地となる。
- 平成元年4月に研究会を設立。
- 平成13年に全国宅配、じねんじょまつりを開始。
- 平成30年度の栽培は1.9haで、2,400kgを完売。

取組内容

- 年3回、栽培履歴の作成を含めた栽培圃地巡回研修を実施。
- 地域の一大イベントとして南川じねんじょまつりを開催し、自然薯を使った料理コンテストなどを実施。
- 中学生等の自然薯掘り体験学習の実施。
- 地元での直売、全国への宅配、各種イベントへの出店など、積極的に販路を拡大。

活動の効果

- 地域高齢者の生きがい対策と地域を元気にする起爆剤となっている。
- 収穫物は直売と全国宅配で完売、消費者との信頼関係を構築。
- 地域の一大イベント「じねんじょまつり&収穫感謝祭」を毎年12月に開催し、地域内外の人との交流を通じて地域が活性化。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからも地域だけでなく関係機関と連携し、後継者を育成しながら生産量の拡大を図り、消費者ニーズに対応していきたい。

さぬき市大川町南川1317番地2 Tel: 0879-43-4066

とよた
豊田協定

～集落ぐるみの獣害対策で、田畑を次世代へ～



集落全景



共同家庭菜園の成功で、対策の成果に手応え

経緯

- 平成8年頃にイノシシ、サルによる農作物被害が集落全体で認められるようになり、農業者の中には、作付けを諦める者も現れる。
- 獣害の影響から集落の中央部に位置する基盤整備田でも休耕地となるところが発生し始めた。
- 集落や農用地の存続に危機感を覚えた有志数人が平成17年に「集落ぐるみの獣害対策」を唱える。

取組内容

- 共同家庭菜園の運営、山際に防護柵とストップゾーン(緩衝帯)を設置。
- 集落を囲む侵入防止柵の設置、集落内の農家・非農家を含めた全員による維持管理。
- 効率的に有害鳥獣を捕獲し、一部を処理・加工して販売。
- 営農集団を設立し、農作業受託を推進しながら、酒米を作付け。

活動の効果

- 平成23年度以降、野生鳥獣による農作物被害がほとんど認められなくなり、集落内の休耕地120aを復田。
- 県内外の獣害対策を講じようとする自治体、団体等の先進事例となり、県内外から多くの視察を受入。
- 捕獲野生獣の獣肉普及に加え、酒米など地域特産物の導入を図ることで、農業所得を向上。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからも、「集落ぐるみ」で、魅力ある集落を次世代へ引き継ぐ取組を継続したいと考えています。

ごみょう

五名活性化協議会

～五名に根ざした、五名愛に満ちた五名活性化～



地域の拠点となる新施設「新五名ふるさとの家」



里山整備で伐採した木材を薪に加工して販売

経緯

- 過疎化が進行する山間地で、地域住民は危機感を共有していた。
- 平成13年、展示会の出展をきっかけに五名の特産品や加工品を販売する「ふるさとの家」の運営を開始する。
- 平成17年、五名小学校が廃校となり、「ふるさとの家」の活動を広げる議論が起こり、平成25年から小学校の跡地利用の検討と地域の活性化のため、協議会を立ち上げた。

取組内容

- 里山整備に伴って出る木材を、薪や炭などに加工して販売するとともに、獣害対策で捕獲したイノシシも食肉加工し、「五名ジビエ」として販売。
- 空き家となった古民家を移住者向けの体験宿泊所として運営するほか、五名マップの作成や子供達を対象とした体験イベントなど地区の魅力を伝える取組を実施。
- 「新五名ふるさとの家」をオープンさせ、地区の魅力を発信の拠点として活用。

活動の効果

- 里山整備で発生する木材を加工した薪や炭などとともに、「五名ジビエ」も東かがわ市のふるさと納税の返礼品として好評を博している。
- 継続的な地域の魅力発信の結果、人口300人程度の地区に35人あまりの移住者があり、子供も生まれて年齢構成が若返り、空き家もなくなった。
- 「新五名ふるさとの家」は移住者の若者が責任者となり、その運営を担っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「新五名ふるさとの家」は地域のコミュニティスペースとして、また地域外の方へ五名の魅力の発信拠点として活用し、五名に根ざした、五名愛に満ちた、五名活性化に取り組んでいきます。

東かがわ市五名1402-4 Tel: 0879-29-2832

株式会社ソルトレイクひけた

～ハマチ養殖発祥の地 県魚の魅力を最大に～



地域ブランドひけた鰯出荷式での解体実演



小学生の校外学習

経緯

- 東かがわ市がハマチ養殖発祥の地「安戸池(あどいけ)」に漁業体験施設「マーレリッコ」を建設する際に、施設の管理運営を担う組織として設立。
- 養殖漁業の体験や地域ブランド「ひけた鰯」を活用した食育教室を展開することにより、施設への集客を図ることとした。

取組内容

- 養殖体験施設、食堂、管理釣り堀を運営し、香川県等とともに連携しながら、東かがわ市の推進する着地型観光の一翼を担う。
- 地域イベントに積極的に参加し、施設のPRに努める。
- スタッフが香川県認定の「お魚一匹食べよう伝道師」等の資格を取得し、幅広い年齢層に魚食教育の普及に努める。
- 地域ブランド「ひけた鰯」の解体実演による販促活動を実施。

活動の効果

- 活動がTVやマスコミ等に取り上げられることが増え、体験学習館の知名度が向上し、多くの小学校等の校外学習の受入れにつながっている。
- 団体向けハマチ解体実演は口コミ等により自治会、婦人会からの依頼が増加し、出張しての魚食教育、実演等も行うようになった。
- 外国からの旅行者からも好評を博している。

応募団体からのアピール・メッセージ

解体実演を商品として販売する取り組みを通じて、過疎地域である東かがわ市への交流人口の増加に寄与したいと考えています。

農事組合法人 福栄中央

～農業で福が栄える地域活性化！～



空ちゃん田んぼ2018



空ちゃん田んぼの田植え

経緯

- 県営ほ場整備事業を実施した優良な農村地帯である福栄地区において、担い手不足による農地の荒廃が深刻化した。
- 農事組合法人を設立し、生産性の向上と利益の増進に努めるが、何より将来の担い手の確保が大きな問題となった。

取組内容

- 「地域の非農家の方、地域外の方々に農業に関心を持ってもらいたい」と、地元の小学生や学生ボランティア等を含めた約250人が田植えを行い、田んぼアート「空ちゃん田んぼ」を実施。
- 地域の他団体と協力して、畦道マルシェ、収穫祭などを開催。
- 「空ちゃん田んぼ」で栽培している赤米を「焙煎赤米」としてお茶に加工して販売。

活動の効果

- 田んぼアート「空ちゃん田んぼ」は平成21年から継続して実施している。毎年の恒例行事となったことで、新聞等に関連する各種イベント(田植え祭り、収穫祭、畦道マルシェ)が取り上げられ、参加者は1,000人規模となっている。
- 農産物の生産を初めとして、各種イベントを協力団体とともに企画・開催、加工品の製造を手懸けるなど、地域の魅力を地域内外へ発信することで地域の活性化や地域特産物の付加価値を高める取組みにも貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

もっと地域の魅力を地域内外へ発信し、古き良きものは残し、同時に新しいものを積極的に取り入れ、地域の活性化や地域特産物の付加価値の向上に取り組んでいきたい。

だいち
大地と語り合う会

～農業はいのちと語り合う営みである～



「大地と語り合う会」結成時のメンバー



ボイセンベリーの商品(果汁・ジャム)

経緯

- 安全で安心、美味しいと喜んでもらえる野菜や果物を作りたい地元農家の主婦達が集まり、「大地と語り合う会」を結成。
- 休耕地の有効利用、地域活性化、高齢化社会に役立つ農作物として木イチゴの一種である「ボイセンベリー」の栽培を開始。

取組内容

- ボイセンベリーや野菜栽培は、減農薬または栽培期間中、農薬不使用で取り組む。
- 定期的な勉強会や情報交換を通じて、地域の環境に適した施肥設計を完成。
- ボイセンベリーの冷凍果実、100%果汁、ジャムなどの加工品を製造・販売。加工残渣も化粧品等の原料として販売。
- 平成29年に新たな加工場、直売所兼カフェを建設。

活動の効果

- 野菜や加工品の販売及び各種イベントへの出店を年間90回実施(平成30年度)。
- 海外でのボイセンベリー栽培の研修を実施し、三豊市の「ボイセンベリー栽培マニュアル実施要領」を作成(栽培技術の向上に寄与)。

応募団体からのアピール・メッセージ

休耕地の有効利用と若者達とのボイセンベリーや野菜栽培に心を繋ぎ、「心の豊かさ」を求めて今後もいろいろな分野に挑戦していければと考えています。

こうち
河内アグリ活動組織

～「農」から学ぶ「生きる力」～



さつまいものつる植え



生き物調査

経緯

- 整備済の広い農地では、農地賃借を含めた有効活用が図られ付加価値のある野菜が栽培される一方、未整備農地では高齢化や後継者不足による耕作放棄地が問題となっていた。
- 人口減、担い手不足から、平成19年度より農地・水・環境保全向上対策事業、平成26年度からは多面的機能支払交付金事業により、遊休農地を活用した取り組みを行う。

取組内容

- 通学路の農道や水路の維持・保全活動。全域農道・水路清掃では、参加者が作業を分担して実施。通学路となっている農道の危険箇所や水路の劣化箇所が報告され、早期対策を行っている。
- 保育園や幼稚園、小学校を対象とし、遊休農地を活用した取り組みを行う。ヒマワリ迷路祭り・生き物調査・農業体験を行う。
- 新そば祭りでは、そば打ち体験を行うとともに、しっぽくそばを振る舞う。
- 親子を対象とした食育プログラム「田んぼっこ」を実施。

活動の効果

- 全域農道・水路清掃では、非農家も積極的に参加し地域コミュニティの活性化が図られた。
- ヒマワリ迷路祭り、新そば祭りではボランティアの参加を募り、地域交流の一環となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「田んぼっこ」は、遊休田を活用し、野菜ソムリエとタッグを組み「農」から学ぶ「生きる力」を育てる。収穫体験、調理実習や販売実習を通して「土育」「食育」「協調性」「社会性」「創造力」をテーマに多面的に子供たちの感性を育む。体験ツアーを行い農業の楽しさを多くの子供に伝えたい。

ただ ひろみ
多田 弘美

～農業はいのちと語り合う営みである～



「大地と語り合う会」のメンバー



ボイセンベリーの商品(果汁・ジャム)

経緯

- 安全で安心、美味しいと喜んでもらえる野菜や果物を作りたいと思う、地元の農家の主婦たちが集まり、「大地と語り合う会」を結成。
- 地域の活性化、休耕地の有効活用になる農産物を探し求め、目に良いとされるポリフェノール(アントシアニン)が豊富で、高齢者の健康増進に役立つボイセンベリーにたどり着く。

取組内容

- ボイセンベリーは地元企業が製造販売している香川県産孟宗竹農業資材を使用し、減農薬または栽培中農薬不使用で取り組む。
- ボイセンベリーの加工品には、「ボイセンベリーみとよ」の商標を取得し、ブランド化が可能となる。
- ボイセンベリーの冷凍果実、100%果汁やジャム、加工した際に出た搾り粕を化粧品原料や竹発酵資材使用肥料の原料として販売。
- 平成29年に新しい加工場と直売所兼カフェが完成。

活動の効果

- 減農薬または栽培中農薬不使用のため、多くのお客様から重宝されている。
- 海外での研修や勉強会を開くことにより、「ボイセンベリー栽培マニュアル実施要項」を作成。栽培技術が向上し、実も大きく糖度の高い甘い実ができるようになった。
- ボイセンベリーの生産を図る活動の中で、8年間閉じこもり状態だった青年に出会い、ボイセンベリーの栽培を指導する中で社会復帰のお手伝いをすることができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

私たちの役割は、休耕地の有効活用と若い世代の人達とボイセンベリー栽培、野菜の栽培に心をつないで自然を大切に、地元の活性化に繋げるよう今後もいろいろな分野に挑戦していければと考えています。

しょうどしまひあたりのさといぎすえ

小豆島陽当たりの里伊喜末

～みんなが集う憩いの場「陽当たりの里」～



芋掘り体験みんなで写真撮影



二条大麦プロジェクト

経緯

- 瀬戸内海を望む風光明媚な地区だが、過疎化・高齢化が進み、数年前から荒廃地が目立つようになってきた。
- 危機感を抱いた有志数名が、地域に活気を取り戻そうと、農業振興と明るく元気な農村づくりをめざし、平成29年度に「小豆島陽当たりの里伊喜末」を立ち上げた。

取組内容

- ビール醸造所「まめまめビール」と「小豆島陽当たりの里伊喜末」が協力して、100%小豆島産のクラフトビールを誕生させる「二条大麦プロジェクト」を実施。
- 地元の子供らにサツマイモのつる挿しと収穫の体験を実施。
- 獣害の防止のため、約2.2kmに渡る被害防止柵を設置。

活動の効果

- 麦の作付けにより遊休農地の解消。
- 「芋づるの塔」は芋のつるを自然乾燥させて牛の餌や堆肥にするための古くからの知恵で、地元住民と町職員でつくる「よつみいきいき協議会」が9年前から実施しているが、収穫後の芋のつるを利用することで継続している。
- 獣害防止柵の設置により、現在では獣による被害はほとんど見受けられない。

応募団体からのアピール・メッセージ

グリーンツーリズムなどのイベント参加の募集や活動の情報発信のためHPを開設し、当地区内の各団体と連携を図り、様々な活動を行って元気な農村にしていきたい。

からと
唐櫃棚田保存会

～「食とアート」の島 豊島～



豊島唐櫃棚田



田植え体験参加者全員で記念撮影

経緯

- 島しょ部で急傾斜地という悪条件と農業従事者の高齢化、後継者不足等で急激に荒廃が進んでいる地区で、棚田保全活動に携わることができる環境・体制の整備を図るため、平成20年度に唐櫃棚田保存会を立ち上げた。また翌年土庄町及び福武財団と共同で、「棚田プロジェクト」をスタートした。

取組内容

- 県内各地から毎年40名を超える参加者が棚田の田植えを経験。
- 秋の収穫祭では「食のマーケット」で地元食材を使った料理や農産物を販売。
- 「島のお誕生会」を毎月開催。
- 瀬戸内国際芸術祭の開催を契機に農林漁家民宿を開業した9名で構成する豊島民泊組合と協力体制を整え、イベント参加者に農林漁家民宿を案内。

活動の効果

- アート目的が多数だった観光客が、棚田で農業イベントを行うことにより、アート目的以外の観光客も豊島を訪れるようになり、「島のお誕生会」は参加者が年間500人を超える。
- 農業や食育という身近な話題がテーマとなっているため住民の多くがイベントに関心をもち、豊島全体の活性化につながった。
- 活動の輪が広がり、島内外から多くの仲間が集まり、かつての唐櫃地区の原風景を取り戻しつつある。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域住民や移住者と連携して農閑期にも楽しめるイベントを企画中。SNSを利用して積極的に情報発信していくほか棚田オーナー制などを計画しています。


 しかい
四海漁業協同組合

～厄介者を高級品に！小豆島の鰹を売り出せ！～



小豆島島鰹まつり・初出荷式



京都産業大学との連携

経緯

- 昨今の少子高齢化、魚価低迷による収入の不安定化等から次世代を担う後継者不足が問題となる。
- 小豆島や香川県では、鰹を食べる文化が無いため、安価で取引されていた。高価格で取り扱われている関西に出荷することで、漁業者の所得向上を目指した。

取組内容

- 「小豆島 島鰹」を名乗るため、4つの基準を設け、他地域との差別化を図る。
- 島内業者が水揚げした鰹を共同出荷することで、安定した品質・出荷量を確保。
- 加工品の開発を可能にするため、鰹骨切機、大型真空包装機等を導入し、骨切を行った鰹の販売(1次加工品)に取り組む。
- 京都産業大学と連携し、情報発信を強化。

活動の効果

- 鰹を食べる文化がある関西に出荷することで高価格で取引され、漁業者の所得が向上した。現在では、新たなブランドとして認知され、小豆島内の飲食店やホテルからの問い合わせが大幅に増加した。また、ふるさと納税の返礼品として扱われ、定着が図られている。
- 流通、加工、PRと産官学で連携し、順調に事業は拡大している。

応募団体からのアピール・メッセージ

将来は、小豆島と言えば「小豆島 島鰹」と呼ばれるよう、今後も認知度向上、販路拡大に努めています。

ひがしじょう

東條地域農業集団

～小豆島で、子供と一緒に心豊かなむらづくり～



どろんこ祭り



産地交流市場「ファームステーション安田の郷」

経緯

- 基盤整備を契機に農地の受託者を組織化するため、集落営農組織を設立。
- 安全・安心なお米を消費者に提供するため、全構成員がエコファーマーの認定を受け、減農薬・減化学肥料栽培に着手。
- 水稲の共同防除にドローンを使用。会員を対象にGAP講習会を実施。

取組内容

- 米の減農薬・無化学肥料栽培による安全・安心なブランド米「安田の郷」を栽培。
- 農作業体験の実施とともに、産直市場・農家食堂を開設、収穫祭の開催など生産者と消費者の「顔の見える」結びつきを強化。
- 地元の子供を対象に水稲やサツマイモの栽培等10回以上の食育イベントを開催。
- 地域住民と共に地区全体に獣害対策用柵を設置したほか、会員が狩猟免許を取得して箱罠を設置。

活動の効果

- 独自ブランド米「安田の郷」は、毎年早期に完売し購入希望数に追いつかない状況。
- 米やさつまいもの農作業体験や農産物を利用した食育イベントを通じ、保育所・幼稚園・小学校等の子供たちへの情操教育に貢献。
- イノシシ・シカなどによる獣害対策に取り組み、自作の箱罠などにより100頭以上のいのししを捕獲することで被害は減少傾向となった。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業者の高齢化と地域の過疎化が進む中、農地を守り次世代へ継承するとともに、地域内外の交流促進により「活気あふれる心豊かなむらづくり」を目指しています。

しょうどしま
小豆島食材開発会議

～島を元気に！「小豆島長命草プロジェクト」～



醤油粕を肥料に使った栽培試験中



長命草プロジェクトの展示会出展の様子

経緯

- 島内企業から、新商品開発に繋がる特長ある原料農産物が求められていた。
- 長命草は、島嶼部の露地栽培に適した塩生植物で、醤油粕を肥料に活用できる上、軽量で高齢者にも栽培し易い。また、栄養価が高く機能が期待されるため、これを特産品化することで地域振興につなげようと食品団体等と生産者有志が集まり、6次産業化とPRの取組みを開始した。

取組内容

- 「小豆島長命草の会」が、醤油粕を施用する試験栽培を行い、最適な施肥量を調査。さらに、農薬や化学肥料を使わない栽培技術を確立。
- メンバーの食品企業・団体が長命草を使った13種類の商品を開発・販売。特産品化を目指し、「しょうどしま長命草」を商標登録。
- 香川県発酵食品研究所等で栄養成分や機能性の分析・研究を実施。
- 島内の小学校新入生に、苗と育て方の資料を配付して紹介。また、地元生活研究グループの料理教室で長命草や本取組みを紹介。

活動の効果

- 長命草は地元食品業との契約栽培のため、農業者は安定した収入を確保している。
- 食品企業は産業廃棄物だった製造副産物(醤油粕)が活用でき、小豆島らしい循環型の効率的な栽培方法が確立された。
- 島内小学生への苗の無償配布や島内イベントへの出展を継続することで、新たな健康食材として注目度が高まった。長命草を目当てにしたイベント等での集客が増え、島内飲食店やパン店等で新たに扱う店舗も増え、地域の活気に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「小豆島長命草プロジェクト」は、長命草を使った小豆島らしい特産品づくりと地域振興を目指した取り組みです。

小豆島町馬木甲1032-1 Tel:0879-82-1011

しょうどしまちょうなかやま

小豆島町中山棚田協議会

～先人の汗の結晶を未来へ継ぐ「中山千枚田」～



復活した伝統行事「虫送り」



中山棚田オーナーによる稲刈り作業

経緯

- 中山千枚田では、耕作者の高齢化と後継者不足が進み、エリアの3割が耕作放棄地となり、地区住民は将来を危惧していた。
- 文化の源である中山千枚田を守るためにアドバイザーに農村工学研究所を迎え、住民主体のワークショップ等を通じて、「棚田の村構想」を打ち立て、その具体的な取り組み主体として設立された。

取組内容

- 平成26年度から棚田オーナーを募集し、棚田での耕作作業・伝統行事などに参加していただいている。
- 平成25年に日本とインドネシアの6大学による農業体験プログラムをきっかけに、学生たちによって「棚田の会」というプロジェクトが立ち上げられ、ボランティアの受け入れや棚田の耕作体験の支援を実施している。
- 平成27年度から、地元の酒造会社と連携し、酒米の耕作に挑戦している。

活動の効果

- 地区外の人たちとの交流により、外部の視点から意見を聞く機会が多くなり、今まで気が付かなかった棚田の魅力に気づき始め、地元住民の棚田の文化を守らなければという意識が強くなってきた。
- 休耕田となっていたところや耕作者が不在となるところで、オーナー制度や酒米づくりを実施することにより、休耕田の解消・予防につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

高齢化により離農される方から、担い手へのスムーズな引き継ぎや、休耕田の復田により、先代から受け継いできた棚田を守っていく仕組み・体制づくりの構築を目指す。

久保 輝明

～瀬戸内の小豆島で、農泊と現地体験を実践！



ゲストハウス&カフェ「あんず」



シーカヤック無人島巡り

経緯

- 坂手地区は少子高齢化や核家族化の影響から空き家となる民家が年々増加している。
- 小豆島を訪れる旅行者に坂手地区に来てもらえるように宿泊施設と飲食店を確保し、現地体験型のプログラムを通じて非日常的な体験をしてもらいたい。

取組内容

- 坂手地区にあった2軒の古民家を農泊宿泊施設に改築し、外国人を含めた宿泊者に提供。うち一軒は、観光客、宿泊者、地域住民のコミュニティの場としての活用を視野にカフェを増築した。
- 地元漁協と提携した「建て網漁・漁業体験ツアー」、「無人島シーカヤック」の体験メニューを創設し、地域観光資源を活かした体験プログラムを充実した。

活動の効果

- 平成27年の1軒目の開業以来、施設利用者は着実に増加し、談話室等で旅行者同士の交流も活発に行われるため、リピーターも多い。
- 現地体験プログラムの参加者も年々増加しており、坂手地区の交流人口の増加と地域の活性化に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

坂手地区に足を運んでくれた方が、また訪れたいと思うような最高の現地体験と思いい出作りが出来るよう地域の方々とともに頑張っていきたい。

さかてこみんか

坂手古民家活用推進協議会

～瀬戸内の小豆島で、農泊と現地体験を実践！



漁家民宿「ゲンザ」



漁業体験

経緯

- 坂手地区は少子高齢化や核家族化の影響から空き家となる民家が年々増加している。
- 小豆島を訪れる旅行者に坂手地区に来てもらえるように宿泊施設と飲食店を確保し、現地体験型のプログラムを通じて非日常的な体験をしてもらいたい。

取組内容

- 坂手地区にあった2軒の古民家を農泊宿泊施設に改築し、外国人を含めた宿泊者に提供。うち一軒は、観光客、宿泊者、地域住民のコミュニティの場としての活用を視野にカフェを増築した。
- 地元漁協と提携した「建て網漁・漁業体験ツアー」、「無人島シーカヤック」の体験メニューを創設し、地域観光資源を活かした体験プログラムを整備した。

活動の効果

- 平成27年の1軒目の漁業体験民宿の開業以来、施設利用者は着実に増加し、談話室等で旅行者同士の交流も活発に行われるため、リピーターも多い。
- 現地体験プログラムの参加者も年々増加しており、坂手地区の交流人口の増加と地域の活性化に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

坂手地区に足を運んでくれた方が、また訪れたいと思うような最高の現地体験と思い出作りができるよう地域の方々とともに頑張っていきたい。

みつごいしいけ
三ツ子石池資源保全組合

～地域みんなで明るく・楽しく～



田中幼稚園芋ほり大会



遊休農地を活用したコスモスの植栽

経緯

- 宅地化が進み、非農家との混住化、農業従事者の高齢化等により農家個々のみでは地域内の農業用排水路等施設及び地域農業を守ることが困難となる。
- 地域コミュニティにおける交流が希薄化しており、地域一体となって地域資源である農地、農業用施設の保全管理が必要となる。

取組内容

- 住民アンケート結果を踏まえた体制整備構想を作成し、地域資源の保管理、農業後継者の育成・確保及び地域の連携を柱とした活動に取り組む。
- 隣接する活動組織と共同して主要幹線道沿いの農地70aにコスモスを植栽。
- 地区内の幼稚園児を対象に「親子連れ芋ほり大会」を実施し、ドローン撮影による「思い出提供」に取り組む。

活動の効果

- 農業用施設の点検・維持・改良はもとより、集落間のつながりが深まったことや農家と非農家の交流が促進された。
- 遊休農地の活用を目的としたコスモス植栽では、訪れる写真愛好家や親子連れとの交流が生まれ、「さわやかロード活動」などの景観保全意識が高まりつつ継続されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

この活動を可能な限り三木町全体に広げるべきと考えており、高齢化等による活動継続が難しい組織に対する支援(区域編入等)を予定しています。

さんなん
山南営農組合 農村レストラン部会

～全員参加型の集落営農を牽引する女性クラブ～



農家レストラン「どんぐりころころ」



玉葱収穫体験

経緯

- 農家の高齢化や後継者不足が進行する中、平成16年に50戸の農家、非農家が組合員となる集落営農組織（山南営農組合）を設立し、農業機械の共同化や米や野菜の直接販売に着手した。
- 平成20年から高品質の農産物を広くPRすることや地域の女性達が活躍できる場を作ることを目的に農家レストラン「どんぐりころころ」を開業した。

取組内容

- 地元のエコファーマーが栽培した減農薬栽培のお米や野菜、猪肉等を使い、猪肉ハンバーグがメインの山鯨御膳を提供。平成24年からは姑クラブがメンバーに加わり、昔ながらの山菜料理、郷土料理を提供。餅やおせち料理の予約販売も好評。
- ブランド化を目指した米や採れたての旬の野菜の他、希少糖（レアシュガースウィート）を活用した椎茸佃煮やイチジクジャムを製造し、直売や出稼ぎ営業を実施。

活動の効果

- 農家レストラン「どんぐりころころ」を開業したことで、飛躍的に地域に賑わいが生まれた。
- 農村レストラン部会のお母ちゃんたちが中心となり元気に活躍することで、お父ちゃんたちも自然に協力する仕組みが構築され、それが地域全体に波及。現在では、農家・非農家問わず地域全員がそれぞれの役割を明確にし、助け合いながら活動できるようになった。
- 地域の活性化はもとより、県外を含めた地域外住民との直接的な交流が生まれることにより、自ずと利益が上がる仕組みが形成されつつある。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は、食堂の営業を継続しつつ、これまで研究してきた地元農産物の加工食品の製造をより一層拡大する。また、女性達为中心となり、農家民宿にも取り組んでいる。



あべ たかひろ

阿部 隆弘

～障がい者と農業者の架け橋として～



平成30年度 農作業支援強化研修会・琴平



ネギの洗浄作業・さぬき市

経緯

- 平成20年頃、県内農家の高齢化が進み、後継者不足のため、作付面積が減少した。また、障がい者は受託作業の減少や自主製品の販売不振から収益が減少した。
- 平成23年にNPO法人が共同受注農作業システムを活用し、農業収益の増額と障がい者の工賃向上を目的とした活動を開始した。

取組内容

- JA関係者と障がい者の工賃値上げ交渉を行い、単価の値上げ、休日の割増賃金及び交通費の支給を実現し、申し合わせ書を作成した。
- 市町と連携して障がい者就労施設を対象とした参入促進説明会や技術研修会の開催、農福連携による農作業の説明用マニュアルを作成している。

活動の効果

- 平成27年に担当コーディネーターとなり、にんにくの定植時期の人員不足を解決した。
- 平成27年と比べ平成30年の障がい者の作業工賃は5.5%、延作業人数は55%、延参加施設数は19.5%と増加させることができた。
- 平成30年にB型作業所の利用者に最低賃金相当額でJAと契約し、その後も定期的に見直しを行っている。
- 県内の農家から、障がい者施設の労働力がなくてはならないと厚い信頼関係を築いている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農福連携支援員やジョブコーチを増員し、農作業への参加施設のさらなる増加と参加した施設が継続できるよう、現場での支援・協力できる人材を募っています。

まろかいきき
丸岡生き生きクラブ

～集落の豊かな自然環境を守る！～



満開となった交流会当日のコスモス畑



親子中心で行うサツマイモ植え付け作業

経緯

- 農地・水・環境保全活動に取り組むため、丸岡営農組合が中心となって結成。
- 丸岡集落の豊かな自然環境を守るため、農業者以外にも様々な立場の住民をまきこむ。

取組内容

- 4月 用水路清掃
- 5月 ため池堰堤草刈り、サツマイモ植付
- 6月 用水路清掃
- 7月 ため池堰堤草刈り
- 8月 コスモス畑耕耘、播種
- 9月 ため池堰堤草刈り、サツマイモ収穫
- 10月 コスモス畑周辺草刈り
- 11月 コスモス交流会（保育園児・老人施設等招待、小学生展示物作成）
- 12月 ため池堰堤草刈り
- 1月～3月 用水路・水門補修

活動の効果

- コスモス交流会は来訪される方が少しずつ増加し、地域の活動団体も新たに生まれている。
- 農業者以外にも様々な立場の住民が一体となったことで、丸岡集落の豊かな自然環境を守れている。

応募団体からのアピール・メッセージ

役員及び住民の高齢化が不安材料ですが、若手の後継者を育てつつ、活動内容を再点検して有効かつ無理のないものに集中しながら取り組んでいきたい。

いなぎ けんぞう
稲木 健造

～化粧品原材料に使用する特別栽培米作り～



牛糞堆肥での土づくり



海外顧客と昔ながらの定規での田植え体験

経緯

- 平成25年度から県独自水稲品種の「おいでまい」を綾川町で低農薬栽培に取り組んできた。
- 米の発酵エキスが基礎化粧品の材料となることが注目されたほか、家族の就職先であった高松市の化粧品製造販売会社と連携し、特別栽培方法で栽培した「おいでまい」を原材料として供給することとなった。

取組内容

- 株式会社「アイム」は、米の発酵エキスを活用して基礎化粧品「ライスフォース」を製造販売している。その原材料の「おいでまい」を農薬の使用量を半分にする減農薬、有機肥料を使用するなど安全性を重視した特別栽培で作り、供給している。
- 「ライスフォース」は特別栽培米を使うことで安全性をアピールし、ブランドを確立するために英国、チェコ、タイ、中国の販売代理店に栽培方法や管理状況を説明するとともに、田植え体験を行った。

活動の効果

- 化粧品の原材料に使用する特別栽培米作りは、農水省の6次産業化・地産地消法に基づく「総合化事業計画」の認定を受けた。また、かがわ産業支援財団の6次産業化へのサポートを受け、稲作づくり、販路の新たな方向性を確立。
- 田植え体験を行った際、農村にある自宅を宿泊所として利用。その際、友人の協力で設置した五右衛門風呂に入ってもらうなど綾川町の自然を体感してもらい好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も原材料の品質や安全性をPRする手段として農業体験を拡大していくとともに農泊事業への展開を図っていこうと考えています。

綾川町北235-1 Tel: 090-3180-1473

のうだひがし
苗田東環境保全の会

～子供たちが描くポスターでふるさとを考える～



苗田東地区のPRポスター



子供たちと清掃

経緯

- 昭和42年に構造改善事業で基盤整備を行い農業中心の地域づくりをしていたが、世代交代、少子化が進み住民の交流が薄らぎ、伝統行事の継承が難しくなっていた。
- 交流が盛んな地区づくりには経費が必要なことから、農地水環境保全対策に取り組むことになり、子供達を交えた環境保全活動の取組を始めた。

取組内容

- 子供会と道路沿いの空き缶等のゴミ拾い、環境保全ポスターの作成、設置を実施。
- 子供たちが作成した環境保全ポスターを、9月に琴平町役場ロビーに展示。展示後、防水加工し、青年部を中心に地区住民で、ゴミの投げ捨ての多い幹線道路沿いに設置。

活動の効果

- 子供を中心としたゴミ拾いやポスター作成、設置などの活動に保護者が一緒に参加することにより地区住民の連携が密になった。また、地区の伝統文化である獅子舞に子供達が進んで参加することで、伝統文化の継承につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地区の伝統文化である獅子舞は、金刀比羅宮、町のイベント等で披露し、町内で注目されている。また、地区住民の結婚披露宴で獅子舞でお祝いすることもあります。

高松市番町五丁目1番29号 Tel: 087-832-7140

たどつ
多度津さくら工房

～力を合わせ地域興し！みんなで楽しく～



イベント参加



各種製品の販売

経緯

○生活研究グループの活動の中で地域の特産品の味について開発活動を行っていたところ「多度津町の農産品で商品化してほしい」との声を受け、会員が出資金を出し合い県や町の支援を得て、本町スポーツセンター管理棟2階に「多度津さくら工房」を設置。

取組内容

- 工房では、町内産のミニトマト、ブロッコリー、ぶどう(デラウェア)、オリーブ等を活用した特産品を製造。
- かがわ物産館やショッピングモール、道の駅、JA香川県、JAグループ産地直売所、飲食店にて販売されているとともに、ふるさと納税の返礼品としても採用されている。
- 積極的に若い会員に声をかけることで3名が加入し、これまで不十分だった営業等の対外的な業務にも積極的に取り組むなど知識や経験を蓄積中である。

活動の効果

- 多度津町の町花・町木は桜で、多度津町生活研究グループスタート時に町内のポタン桜の葉を塩漬けにして作った桜餅は、“町の桜餅”として町民に親しまれている。
- 工房の製品は、高松商工会議所や公益財団法人かがわ産業支援財団を通じて商社とコラボレーションするなど発展している。これによりメンバーの意欲がさらに高まって、企業の研修などに意欲的に参加している。

応募団体からのアピール・メッセージ

14名全員が力を合わせて頑張っており、「ただ老いてゆくのではなく、みんなで海外旅行に行こうね！！」を合い言葉に新製品を考え、仲間とともに多度津町の特産品のPRと知名度を上げ町の活性化の為に頑張っている。

多度津町道福寺640番地2 Tel: 0877-33-1533

ほのやま
帆山地域保全活動組織

～ほのやまロード、ひまわりに託す夢と希望～



ほのやま中山ひまわり団地



まんのう町ものづくりセンターでの展示

経緯

- 「帆山農業改善団体」を中心に営農活動を行ってきたが、農業従事者の高齢化等が進み、地域農業の維持が困難。
- 新たに農事組合法人「ほのやま」を設立、農地の利用権設定や作業受託等に取り組み、農地集積と機械の有効利用を図ると共に、次世代の担い手を育成。

取組内容

- ひまわり22ha、約110万本の開花にあわせ「ひまわり祭り」を開催。写生大会やフォトコンテストなどを実施し地域の活性化に寄与。
- 「ひまわり油」や県内企業と連携し、「ドレッシング」、「ひまわり牛」と孟宗タケノコを使用した「ヒマワリコロッケ」など地域の特産品を開発し最寄りの道の駅などで販売。
- 本年度から「(農)ほのやま」を中心にひまわり米を生産し、全量販売予約を終えている。

活動の効果

- ひまわり祭りは、地域住民の世代を超えた交流の活性化や若者のボランティアが増加するなどまんのう町のイベントに発展、県内外から延べ4万5千人余りが訪れる夏の風物詩に成長。
- 県内企業や地元の畜産農家と連携し、ひまわりを活用した特産品を数多く開発・販売、人気商品となり地域経済の活性化に貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本の花風景100選に選ばれたひまわりの里帆山地区、魅力ある農村景観を未来に繋げたい思いで、今後も耕作放棄地の解消を推進し更なる地域の活性化を目指したい。

まんのう町買田277-1 Tel: 0877-73-5371(事務局 近石)

株式会社 グリーンパークまんのう

～ひまわりを活用した町おこしプロジェクト～



中山ひまわり団地



取扱店での商品陳列状況

経緯

- 平成元年度から取り組んでいたひまわり事業を、地方創生の流れの中で農業振興策として平成28年度から町を挙げて取り組むこととなり、景観作物のひまわりと共に搾油用ひまわりで採れたオイルを地域ブランドとして全国に向け販売促進を行っている。
- 第3セクターとして町と連携してひまわり事業を支援し、雇用の拡大及び農家の所得向上に貢献すべく取り組んでいる。

取組内容

- 町が整備した「ものづくりセンター」でひまわりオイルの製造・販売を受け持ち、町と連携しながら高品質オイルを全国に向けて販売促進している。
- ひまわりオイルを使ったドレッシングは、町内の道の駅・まんのう公園内で販売。
- 農業法人「ほのやま」から、ひまわりオイルで揚げた「ひまわりコロッケ」を買い取り、まんのう公園内のレストランで販売。
- 様々な事業者（化粧品・食品）へのアプローチを行う。

活動の効果

- 平成30年度の香川県産品コンクールでは最優秀賞の知事賞。各県の1位が集った「ふるさと優良食品中央コンクール」で最優秀賞の農林水産大臣賞を受賞する栄誉を手にした。
- 県内外の百貨店等での販売も順調に増加している。
- ひまわりオイルを使ったドレッシングは、道の駅・まんのう公園で好評商品となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も当該事業に力を注ぎ、景観作物としての観光資源による経済活動と共に、農業振興施策として生き残りがかかった自治体間競争の一助となるよう活路を求め積極的な販売戦略を展開しながら多くの関係者と協力することで発展させていきたいと考えています。